

## あなたのカフェタイムが、女性たちを支える力に ～リニューアルオープン、Yカフェ パーショ～

聞き手・まとめ：堀添里緒（横浜YWCA 会員）

横浜YWCAでは、生きづらさを抱えた女性のための就労支援の場として、2008年よりカフェを運営しています。「花花カフェ」として多くの方に親しまれてきたそのカフェが、2016年9月1日をもって「Yカフェ パーショ」へと生まれ変わりました。担当職員（平澤）に、リニューアルの経緯や、そこで働く女性たちとのやり取りを通じて感じるやりがいなどについてお話を聞きました。

——カフェがリニューアルオープンしましたね！リニューアルを記念した、松井亮太さんのチャリティーライブも大盛況でしたね。

平澤 ありがとうございます。お陰さまでたくさんの方々に来て頂くことができ、Yカフェ パーショを知ってもらうことができたと思います。

——今回のリニューアルでは、どんなところが変わったのでしょうか。

平澤 大きく変わったのは、カフェの名称と、そこで働く対象者を「生きづらさ働きづらさを抱える女性」としたことです。もともと横浜YWCAのカフェ事業は、精神的な辛さを抱え

て精神医療を受けている女性たちを主な対象として始まりました。家に引きこもりがちで、病院と家との往復だけになりがちな彼女たちが、病院以外に安心して出かけることができる場、そして将来仕事に就くための自信と力を取り戻す場を運営していました。

ですが、リニューアルを機にカフェのコンセプトをもう一度話し合い、精神疾患の女性だけではなく、児童養護施設の中高生や、これまでも来ていたけれども人数としては多くなかった引きこもり経験のある方なども就労訓練の対象者として力を入れることにしました。こうすることで、より現代社会のニーズに沿った事業となったと考え

ています。

——このように、「生きづらさや働きづらさを抱える女性」を対象とした就労訓練の場というのは珍しいと聞きました。

平澤 何が重要かという、いわゆるグレーゾーンの方もこのカフェの就労支援を利用してもらえる点なんです。通院もしていないし、障害者手帳も持っていない、障害があるかもしれないし無いかもしれない、というグレーゾーンの方々への支援というのは乏しいのが現状です。こういった方は周りからも勘違いされやすいし、自分自身も障害があるという認識がないことも多くあります。

また、私たちは女性だけで安心して通える就労支援の場の必要性というのを強



▲店内



▲タイのグリーンカレー



く感じています。ひきこもりの自助グループを例にとってみてもその参加者の8割は男性当事者という話もあるように、男性も女性も参加可能とあっても、実際に女性にとっては社会参加への入り口が狭くなっているという状況があります。これは、生きづらさを抱える女性が直面する困難の1つです。

また、若年女性には「家事手伝い」というくりがあり、それは若年無業者としてカウントされないため、実際は働きづらさを抱えた女性であっても、数字にはあらわれてこないといった問題もあります。

——カフェの名称も「Yカフェ パーショ」へと変わりましたが、パーショというのはどういう意味なのでしょう

平澤 パーショは、エスペラント語で「歩み」という意味です。仕事をしてみたいけどまだ働くまでの自信がない方たちに、カフェと一緒に就労への一歩を踏み出しませんか？という気持ちが入められています。ちなみにYカフェのYは、YWCAのYです。

——Yカフェ パーショで働く女性たちは、どこかの機関から紹介されてくる場合が多いのでしょうか。

平澤 個人の方から問い合わせがあることもあります。基本的には色々な機関から紹介を受けています。一例を挙げると、このカフェは横浜市職場実習事業所の協力事業所として登録されています。その他にも、NPO法人ブリッジフォースマイルや、よこはま若者サポートステーション、青少年相談センターなどといった協力機関を通じて、実習生やインターン生などを受け入れています。

ブリッジフォースマイルは、児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちの自立支援をしており、カフェでは学校の長期休暇の期間に学生インターン生の受け入れを行っています。よこはま若者サポートステーションは、若者を

機関の方々と連絡を取り合いながら女性たちをサポートしています。

——様々な機関と連携しているんですね。人にもよると思いますが、実習期間はどれくらいなのでしょう

平澤 一概には言えませんが、大体1年から2年弱で卒業していく方が多いかなと思います。カフェに来る方は、働くこと自体が初めてという場合も珍しくありません。まず「働く」ということに慣れてもらい、力をつけてから新たな就労先を見つけることが目標です。具体的には、自分で決めた曜日の決まった時間に出勤し、ほかの実習生やボランティアと会話しながら、開店の準備をしたり、オーダーをとったり、飲み物を作ったりします。

——平澤さんは5年ほどカフェ事業に携わっていますが、実際に店長としてお店に立って働くことの大変さを聞かせて下さい。

平澤 やはり難しいのは、実習生の方たちと働くなかで、どこまで助言して、手助けするのかというラインを見極めることですね。接客にしてもドリンク作りにしても、仕事というのはちょっと難しいかもしれないと思うぐらいのハードルを越えながら、次のステップへと進んでいきますが、そうかと言って無理をしすぎると体調を崩してしまう。どの程度のサポートがその人にとって適切なのかを判断するのは簡単ではありません。たとえば案内1人でお任せしたほうが上手くいく方や、逆に普段落ち着いているのに動転してしまう方もいますし。ゆくゆくは、ちょっと頑張ってみる、ここでは息を抜くというように、自分自身でブレーキとアクセルのバランスをとるということを学んでいって頂けるといいですね。

ただ、皆さん継続して働いていくなかで、どんどん頼もしくなるなというのは感じています。実習生のなかで古株の人は、もちろん周りの実習生たちから頼られているのですが、その人が

卒業しても、カフェがまわっていくんです。というのも、その人が抜けたあとは、今いる方たちが各々抜けた人の穴をカバーしていって行く。皆さん、カフェでのキャリアが長い人の動きを見て、きちんと学んでいるんだなと思います。

——では実習生の方の反応で、嬉しかったものはありますか。

平澤 「ここへ通うのが楽しい」と言われることですかね。彼女がここを居場所や安心できる場として認識していて、人とのつながりがつくれているから、通ってこられる。パーショでの仕事が、初めて就く仕事という場合も少ないなかで、お客様とちょっとした会話を楽しめたり、コーヒーがうまく淹れられるようになったり、色々な成功体験が積み重なったからその言葉だと思うんです。

また、実習生の方がこういう言葉を言ってくれたら、そろそろ次のステップに進むサインかなと判断しています。それは、失敗しても良いから1人でやってみるということです。今まで私や先輩の実習生と一緒にやっていたわけですから、自分だけでやれば当然失敗もします。でもそれで全然構わないんです。私は普段から、実習生の方たちに「ここはいくら失敗してもOKな場所なんだよ」ということを伝えるようにしています。ミスは誰でもするので、そのあとどう動くかということを考えてもらいたいと思っています。でも、ここは失敗しても平気なんだなと思ってもらうには、本人がこの場所を安心できる場として感じられているということが大前提ですよ。ですので、まずは安心できる場だと感じてもらうから、ちょっとずつ高いハードルを設けていっています。

——最後に、カフェのメニューについてお聞きします。グレープフルーツティーというのを私は初めて頂いたのですが、さっぱりしていて美味しいで



すね。

平澤 こちらは、横浜YWCAの会員から教わったものなんです。年間を通じて頼まれる方が多いメニューの1つです。他にも、フェアトレードの豆を使用して丁寧に淹れたコーヒーも根強い人気を誇っています。今の時期には、たっぷりの牛乳で茶葉を煮出したロイヤルミルクティーもおすすめですね。——水曜限定のハッシュドビーフやグリーンカレーのランチも、とっても美味しそうですね！

平澤 ハッシュドビーフは、料理上手な会員の秘伝レシピで、ほっとする味だとお客様にも大好評です。また、グリーンカレーは、タイ王室のシェフから作り方を教わったという、会員の知人女性に指導してもらいました。他で

はなかなか味わえない本格派だともっぱらの評判ですよ。

——聞いているだけでお腹が減ってきます。今度はランチの時間にお邪魔しますね。平澤さん、貴重なお話をありがとうございました。

平澤 こちらこそありがとうございます。カフェの実習生は、社会に出て働くための経験を必要としています。お客様としてお越し頂くことが彼女たちをエンパワメントすることにつながりますので、ぜひYカフェパーショまで足をお運びください。店員一同、お待ちしております。



▲フェアトレードコーヒー

### これまでの登録実習生数と実習日数(のべ)

年度	実習生数	実習日数
2010	5	26
2011	6	95
2012	7	125
2013	8	452
2014	7	469
2015	9	186



▲パウンドケーキセット



▲接客中の様子



## 「創立100周年記念募金」のお礼とご報告

女性がより安心・安全な環境で横浜YWCA会館を利用できるようにと、創立100周年を記念して、会館を改修するために多くのご寄付を皆様から頂戴しました。募集期間終了の2016年3月までに総額5,152,263円を頂戴しました。目標額の800万円には届きませんでした。女性のた

めの相談室(カウンセリングルーム)の設置、カフェのリニューアル、1階オープンスペース・2階トイレのバリアフリー化といったことを行うことができました。ご協力いただきました皆様には、心より感謝申し上げます。

横浜YWCAが行う「生きづらさを感じる女性の支援」、「暴力を受けた女性の支援」は、皆さまからのご寄付によって支えられています。「創立100周年記念募金」は2016年3月で終了となりましたが、引き続き皆さまの温かいご支援とご協力を、よろしく申し上げます。

# ひとりひとりの女性がその人らしく、 安心・安全・健康に生きていけるように ～暴力を受けた女性のための「ゆう」～

女性の人権を守るというYWCAのミッションに基づき、横浜YWCA「ゆう」では暴力を受けた女性の支援を行っています。「ゆう」の特徴は、弁護士・カウンセラー・女性サポーターという、3つの立場から支援を展開している点です。

弁護士は、毎月2回行われている「よくわかる離婚講座」の講師となり、離婚に関する基礎知識やドメスティックバイオレンス（以下、DV）についてお話ししています。講座受講者で希望する方は、講師である弁護士との個別相談も利用でき、収入と資産の条件を満たせば、法テラス（日本司法支援センター）の制度を使って、相談料が無料となります。離婚講座は、受講料が1500円であることや仮名での申込みも可能であることなどから、参加するハードルが低く、お悩みを抱えている方にとって、支援の入り口となること

もあります。離婚講座を受けた後、心理カウンセリングや女性相談を申し込むケースも増えています。

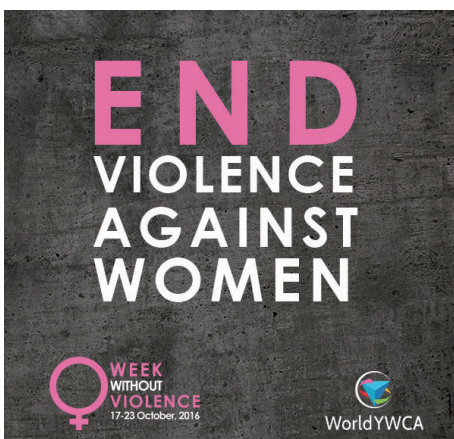
「心理カウンセリング」では、心の悩みや生きづらさについて、心の専門家が話を聞きます。カウンセリングの場で、ご自分について考えることを通して、自分自身を見つめ直し、ご自分の悩みや課題に向き合うお手伝いをしています。少し前から暴力を受けた女性に限らず、引きこもりの娘などを持つ母親に対してカウンセリングを始めするなど、さまざまな生きづらさを抱えた女性を対象としています。また、今まで月6日だったカウンセリング日が、4月からは週5日行われるようになり、カウンセリングの枠が大幅に広がりました。

女性サポーターによる「女性相談」は、お悩みの交通整理や生活や福祉について何をどこにどのように相談すれ

ばいいのか困っている女性のための相談窓口です。必要に応じて弁護士事務所や裁判所などへの同行支援も行っています。

困難な状況にある女性にとって、法律と心という両面の支援が必要な場合が少なくありません。そのため、「ゆう」の強みであるトライアングルでの支援によって、女性をより効果的にサポートすることができます。たとえば、カウンセリングをきっかけに、自分が何となく感じていた生きづらさが、パートナーからの暴力に起因するものだと知って、女性相談を利用するケースや、実際に離婚をした後で、今まで溜め込んでいた心の悩みを表出するためにカウンセリングが必要になるケースなどがあります。

また2015年の10月には「知る 寄り添う DVをなくすために私たちにできること」というリーフレットを作



▲世界YWCAの非暴力週間のロゴ



▲性的な搾取の対象となっている人々のうち、98%が女性と少女です。



▲世界中で1億3000万人の少女と女性が女性器切除を経験しています。

成し、DVについての啓発も行っていきます。

「ゆう」の事業は現在多くの女性に利用されていますが、5年後、10年後も続く息の長い支援を行っていく

ためには、より多くのリソースが必要です。横浜YWCAの事務所には、女性に対する暴力をなくすための募金箱を設置しており、頂いた募金は「ゆう」の活動に充てら

れます。ぜひ皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

### これまでの年間利用者数（のべ）

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015
離婚講座 (内、法律相談)	47 (14)	130 (41)	137 (56)	181 (56)	169 (65)	238 (108)
カウンセリング	14	32	64	65	66	107
女性相談 (内、同行支援)	6 (1)	21 (5)	20 (1)	35 (10)	22 (4)	17 (8)

# 生活圏で孤立することなく、 健康で自立した生活が送れるように

## ～シニアサロン ティールームよこはま

一般的にシニア向け事業というと、すぐに「介護関連事業」と連想されがちですが、この「シニアサロン ティールームよこはま」のミッションは違います。誰もが経験したことのない超高齢化社会を迎えるなか、1人1人が生き生きと輝くために重要なことは、介護が必要ではない方たちに対しても焦点を当てた活動です。そのため、「ティールームよこはま」では、そういった60歳以上の方たちが、健康的で独立した毎日を送り、生活圏での孤

立を防止するための、刺激的な場を提供することを目指しています。

2005年から始まったこの活動は、毎月2回、木曜の午後に行われています。毎月第1木曜日は、懐かしい童謡や季節の歌を合唱する「歌声カフェ」や、マンドリンの演奏を楽しむマンドリンコンサート、近隣の名所への散歩など、多種多様なプログラムを取り揃えています。第2木曜日は、小物づくり教室を開催しています。また第3金曜日

には、好評だった気功を定例開催しています。

時代に応じてニーズも変わってくるため、ボランティアが運営ミーティングを重ね、プログラム内容を随時変えています。今後も、参加して下さる方の知的好奇心を刺激し、新たな世界の糸口となるような企画を出せるよう努力していきます。



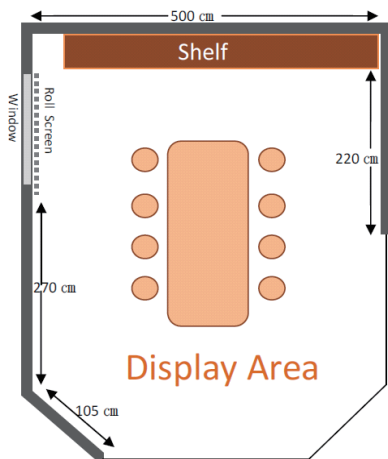
▲歌声カフェの様子

### 「ティールームよこはま」の 年間開催回数と利用者数

年度	開催回数	利用者数
2010	24	375
2011	36	564
2012	24	317
2013	24	401
2014	24	343
2015	33	337

## 貸ギャラリー はじめました

壁面や棚を使った展示が可能です。ご相談ください。1日 4,320円～



## 横浜YWCAの事業案内

- チャリティプログラム \*クリスマスコンサート (12月) \*YWCAオープンデー (不定期)
- 定期開催 \*シニアサロンティールームよこはま (月2回) \*暴力を受けた女性の支援者向け講座  
\*女性のための法律講座 (年18回) \*心理カウンセリング (要予約) \*女性相談 (要予約)
- 生涯学習 \*国際理解講座 \*平和学習会 \*朗読ボランティア
- お買い物 (月～土) \*リサイクルコーナー \*フェアトレードコーナー
- 貸しホール (150席)・貸し会議室 (12～50席)・貸しギャラリー  
ホールは、ピアノ発表会、音楽会、ダンスなどにもお使いいただけます。

## ご寄付のお願い

横浜YWCAでは、女性一人ひとりがその人らしく、安心、安全、健康に生きていけるようにと願い、暴力を受けた女性の支援、生きづらさを抱える女性の就労支援、そして集い学ぶ場の地域の方への提供を柱に活動しています。2015年度はのべ105人・64団体から約326万円のご寄付をいただきました。横浜YWCAは皆様からのご寄付によって支えられています。心より感謝申し上げますとともに、引き続きのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 【窓口で寄付をする】

横浜YWCA会館の受付でお申し出ください。  
受付時間：月～土の9:00～17:30 (第1・第3水曜のみ20:30まで)

### 【郵便振替で寄付をする】

郵便局備え付けの振替用紙で (通信欄に「寄附」とご記入ください)  
口座番号：00220-5-16246 口座名義：公益財団法人 横浜YWCA

### 【銀行振込で寄付をする】

お振込み情報の確認のため、必ず横浜YWCAまでご連絡ください。  
三井住友銀行 横浜支店  
口座番号：普通 5030683 口座名義：公益財団法人 横浜YWCA

### 寄付金の税の優遇措置について

当法人が行う公益目的事業に対する寄付金には、税制上の優遇制度が認められています。個人の方は、確定申告により一定額を限度とし、所得控除が受けられます。



## 公益財団法人 横浜YWCA

〒231-0023 横浜市中区山下町225番地  
TEL:045-681-2903 FAX:045-662-0926 Email: info@yokohama-ywca.jp  
http://yokohama-ywca.jp/

YWCA (わい・だぶりゅー・しー・えー) は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。